

別表② ●人口構成の推移と予測

区分	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成5年	平成11年
総人口	9,360人	10,022人	10,035人	10,163人	11,334人
年少・生産人口 (65歳未満)	8,092人 (86.4%)	8,501人 (84.8%)	8,295人 (82.7%)	8,323人 (81.9%)	9,150人 (80.7%)
高齢者人口 (65歳以上)	1,268人 (13.6%)	1,521人 (15.2%)	1,740人 (17.3%)	1,840人 (18.1%)	2,184人 (19.3%)



昭和55年には1,840人(18.1%)、平成5年には1,840人(同18.1%)に達し、さらに平成11年には2,184人(19.3%)に増加してきています。

それに、65歳以上の高齢者人口は、昭和55年(1,268人)から平成11年(2,184人)まで、増加率19.3%と、高齢化人口割合(高齢化人口割合、13.6%)であったものが、平成5年には18.1%、平成11年には19.3%に達し、さらには平成11年には2,184人(19.3%)に増加してきています。

また、この計画を実現するために、次の三つを重点施策として推進していきます。
その第一として、サービスの提供を確保するためには、福祉・保健・医療の各機関(関

手をつなぐ福祉・保健・医療
さて同計画は、今年度(1994年)を初年度として、目標到達年次を平成11年度(2000年)とした6か年計画となっています。そして、福祉・保健・医療のサービスの目標を数値で表わしたものを、現状と比較すると別表①のようになります。

「手をつなぐ福祉・保健・医療」は、今年度(1994年)を初年度として、目標到達年次を平成11年度(2000年)とした6か年計画となっています。そして、福祉・保健・医療のサービスの目標を数値で表わしたものを、現状と比較すると別表①のようになります。

このように、長寿社会であること自体は喜ばしいのですが、反面、寝たきりや痴呆など、自立して生きていくことのできないお年寄りが急増していくことも十分に予想されます。さらに核家族化が進み、扶養意識が変化している中で、家庭での介護だけでは限界に近づきつつあります。つまり、この高齢化社会の出現と、それに伴う私たちの対応を社会全体の問題として考えていく必要に迫られている中で、岩室村が進む指針を定めなければならなかったというのが策定の大きな理由です。

「手をつなぐ福祉・保健・医療」は、今年度(1994年)を初年度として、目標到達年次を平成11年度(2000年)とした6か年計画となっています。そして、福祉・保健・医療のサービスの目標を数値で表わしたものを、現状と比較すると別表①のようになります。

ご利用ください

寝具等の丸洗い・乾燥等サービス事業
村では、今年1月1日からお年寄りの皆さんの健康管理と、その家族の身体的・精神的負担の軽減を図ることを目的に「岩室村ひとり暮らし老人及び寝たきり老人等の寝具乾燥等事業」を実施いたしますのでご利用ください。
■対象者…利用対象者は、在宅で寝具乾燥等が困難なおおむね65歳以上のひとり暮らし老人及び老衰、心身の障害及び傷病等の理由により寝たきり状態の人。
■事業内容…この事業は、寝具乾燥等業者から年3回巡回してもらい、寝具等の丸ごと水洗い及び乾燥・殺菌のサービスを行います。
■申込み・問い合わせ…役場住民福祉課(☎82-4111)又は岩室村在宅介護支援センター(☎82-5490)まで。

最後に、老人保健施設「いわむろの里」に隣接する場所にデイサービスセンターを建設し、岩室温泉を利用した浴場を設置するなど、在宅の要援護老人等と家庭を支援していくためのハード面の整備も推進していきます。

以上が、同計画の重点施策ですが、このほかにも皆さんが住み慣れた地域で、健康で安心して暮らせるような「福祉水準の高い村づくり」を目指してまいります。

※21世紀に向けた社会福祉計画の詳しくは、広報いわむろ8月号以降でお知らせします。

では、なぜ今福祉計画を策定するのか!?
では、その前提として、社会環境が大きく変わろうとしていることを皆さんからも認識していただきたいと思えます。
総人口の中で、65歳以上の人口の割合が増えていくことを高齢化といいますが、日本の高齢化率は急速に進んでおり、西暦2020年には25.5%と、先進国の中でもトップの水準になるといわれています。
そこで岩室村の現状をみてみると、昭和63年から平成5年までの人口は、総数で0.48%とほぼ横ばい状態で推移しており、大きな変化はありませんが、年齢別人口構成では昭和60年頃を境に年少・生産人口(65歳未満)が減少傾向にあり、逆に高齢人口(65歳以上)が増加してきています。

このように、長寿社会であること自体は喜ばしいのですが、反面、寝たきりや痴呆など、自立して生きていくことのできないお年寄りが急増していくことも十分に予想されます。さらに核家族化が進み、扶養意識が変化している中で、家庭での介護だけでは限界に近づきつつあります。つまり、この高齢化社会の出現と、それに伴う私たちの対応を社会全体の問題として考えていく必要に迫られている中で、岩室村が進む指針を定めなければならなかったというのが策定の大きな理由です。

人にやさしい 地域にやさしい 村づくりをめざして 岩室村社会福祉計画を策定

別表① ●岩室村社会福祉計画におけるサービス目標総括表

区分	現況	サービス目標水準			平成11年度サービス目標量	平成11年度サービス提供体制
		虚弱老人	寝たきり老人	痴呆性老人		
ホームヘルプサービス	4人	週1回	週3回	週3回	年間 12,142人・時間	ホームヘルパー11人(常勤換算)
デイサービス	—	週1回	週2回	週2回	年間 3,550人・日	デイサービスセンター 1か所
ショートステイ	実人数7人 年間延べ398日	年1回	年6回	年6回	年間 1,680人・日	5床 広域対応
健康教育	一般41回/年 重点23回/年	一般 31回/年 重点 35回/年	—	—	一般 31回/年 重点 35回/年	医師・保健婦・栄養士の適切な指導
健康相談	一般100回 重点20回	一般 130回/年 重点 20回/年	—	—	一般 130回/年 重点 20回/年	医師・保健婦・栄養士の適切な指導
健康診査	基本健康診査	1,812人 (76%)	受診率 75%	—	受診者 1,965人	集団検診
	胃がん検診	650人 (27%)	受診率 30%	—	受診者 786人	集団検診及び医療機関による個別検診の推進
	子宮がん検診	323人 (18%)	受診率 30%	—	受診者 582人	集団検診及び医療機関による個別検診の推進
	肺がん検診	1,938人 (81%)	受診率 80%	—	受診者 2,096人	集団検診及び医療機関による個別検診の推進
	乳がん検診	251人 (12%)	受診率 20%	—	受診者 388人	集団検診及び医療機関による個別検診の推進
	大腸がん検診	—	受診率 25%	—	受診者 655人	集団検診及び医療機関による個別検診の推進
機能訓練	—	年間 52回	—	年間 881人	保健センター等公共施設の活用 理学療法士・作業療法士・言語療法士の指導	
訪問指導	保健婦3人 在宅要援護1人 (年間延べ599人)	年 10回	—	年間 744人	医師との連携 高齢者サービス調整チームの体制整備	
訪問指導	—	年 1回	—	年間 32人	村内歯科医師の協力体制 保健所との連携	
訪問指導	—	年 1回	—	年間 74人	栄養士との連携 高齢者サービス調整チーム体制整備	
痴呆性老人訪問指導	(年間599人)	年 3回	—	年間 137人	医師との連携 高齢者サービス調整チームの体制整備	
特別養護老人ホーム	10人入所 4か所	老人人口の1%強	—	入所者数 25人	広域対応	
養護老人ホーム	4人入所 2か所	現状程度	—	入所者数 4人	広域対応	
老人保健施設	15人入所 1か所	老人人口の1%程度	—	入所者数 20人	1か所	
ケアハウス	入所者 0 郡内施設0	—	—	—	広域対応	
デイサービスセンター	—	中学校区に1か所	—	1か所	1か所	
在宅介護支援センター	1か所	中学校区に1か所	—	1か所	1か所	
保健センター	1か所	1か所	—	1か所	1か所	

計画策定にあたって

人生80年時代を迎えて急速な高齢化の進行、核家族化の進展など社会情勢や生活環境は大きく変わってきています。
このような時代において、高齢者や障害を持つ人々をはじめ、全ての人々が生涯を通じて健康で生きがいをもてる、明るく活力に満ちた社会の実現に向け、総合的な施策を推進することが重要な課題となっております。
そこで村では、このように年々複雑、多様化する福祉や保健、医療についての現状と課題を的確に踏まえ、長寿福祉社会にふさわしい岩室村を創造するための「岩室村社会福祉計画」を策定しました。
この計画は、平成11年度を目標年度として、「福祉のむらづくり」のため福祉・保健・医療の三本柱を中心とした総合的な施策をまとめたもので、来たるべき21世紀の高齢化社会を展望し、「福祉(保健)水準の高い岩室村」を目指して各種関係機関や団体と連携を強めながら、村民の皆さんと行政とが一体となった総合的なサービス提供体制を確立してまいります。

計画実現のためには皆さんの協力が必要です

今回の社会福祉計画は、国の総合的な高齢者対策の基本である『高齢者保健福祉推進10か年戦略(ゴールドプラン)』にあわせ策定したのですが、この計画の実現のためには皆さんのご協力が不可欠です。今号では計画の概要のみのご紹介ですが、今後、詳しい内容について随時ご紹介していきますので、皆さんもご趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。